



日本視覚障害者団体連合のシンボルマーク

愛盲時報

令和4年7月25日（月）第275号

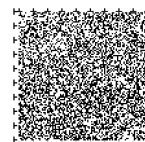
発行所：社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合
 〒169-8664 東京都新宿区西早稲田2-18-2
 発行人：竹下 義樹／編集人：吉泉 豊晴
 電話：03-3200-0011／FAX：03-3200-7755
 URL：http://nichimou.org/
 Eメール：jouhou@jfb.jp（情報部）

おしらせ
 この愛盲時報は鉄道弘済会の
 不動産賃貸事業などの益金等、
 日本盲人福祉委員会の愛盲シー
 ル維持会費の中から贈られた
 寄付金などで作られたものです。

第75回全国視覚障害者福祉大会 ～ハイブリッド方式で開催～



【写真】日本視覚障害者団体連合 竹下義樹会長（右）と名古屋市視覚障害者協会 田中伸明会長(左)



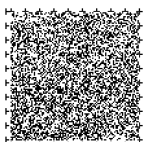
今年ハイブリッド方式で

日本視覚障害者団体連合（以下、日視連）と名古屋市視覚障害者協会主催による第75回全国視覚障害者福祉大会（名古屋大会）が、愛知県名古屋市のANAクラウンプラザ ホテルグランコート名古屋を会場に5月31日から6月1日まで開催されました。今大会は、リアル参加とオンライン参加を交えたハイブリッド方式で開催され、2日間をとおして全国から多くの視覚障害当事者の参加がありました。

今大会はシンポジウムも開催

1日目には、シンポジウム「未来に向けてのメッセージ～多様性ある社会を目指して～」が開催されました。ファシリテーターを名古屋市視覚障害者協会 ほしの星野 ふみたか史充研究部長が務め、日視連青年協議会より かたひらちかみ片平考美会長ほか2名、日視連女性協議会より あべてるみ阿部央美会長ほか3名が登壇しました。

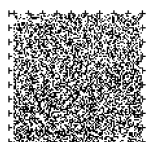
青年協議会は「地域の当事者団体で青年層が活躍するために、今できること～全国青年部活動実態調査から持続可能な当事者団体活動を考える～」をタイトル



に発表を行いました。片平会長より令和2年度に行ったアンケートの内容に基づき、全国の青年部活動の実情について報告があった後、次世代リーダーの発掘育成や働き盛りの青年が活動しやすいシステムづくり、またそれに関連し、日視連の協議会を時代に即して、再編することについて提言がありました。次いで地域での青年部活動の活性化の参考として、愛知県内や東海ブロックでの取り組み事例が紹介され、同世代の交流や会員増加、オンラインなどを用いた情報発信の重要性について意見が述べられました。

女性協議会は「明日を生きる視覚障害女性の思い～子育て、親の介護、老いていく自分を見つめて～」をタイトルに発表を行いました。登壇者からは子育てや防犯対策、入院時や買い物、選挙の投票における女性視覚障害者の困難について問題が提起され、女性の相談員を置くなど、女性ならではの相談ができる場の提供や、防犯対策について訓練や対策グッズなど、意見が述べられました。

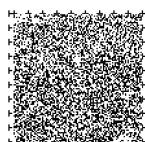
両協議会の発表を踏まえた意見交換の後、総括で日視連 たけしたよしき 竹下義樹会長は「女性や青年層を巻き込んだ地域



団体づくり・運動づくり、会員募集や会員・非会員を問わない行事の組み立てを加盟団体とともに検討し、地域団体の消滅は日視連にとっても危機的な問題であることを肝に銘じて、今後の日視連運動を組み立てていきたい」と決意表明にしてまとめました。最後に、共同アピールを両協議会会長が読み上げ、名古屋大会が参加しやすい組織づくり推進の契機となることを願いシンポジウムを締めくくりました。

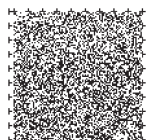


【写真】起立し「名古屋共同アピール」を読み上げる 阿部央美 女性協議会長（左）と片平考美 青年協議会長（右）



名古屋共同アピール

- ◆ 持続可能な組織にするために、これからの日視連の活動を担う人材が育つ環境づくりを進めましょう
- ◆ これからも続く社会の変化に柔軟に対応するために、よりよい組織づくりへの熱意を常に持ち続けましょう
- ◆ 誰もが担うことが求められる子育てや自分を含めた家族の入通院への対応に向けて、視覚障害が障壁とならないための制度づくり、社会づくりを押し進めましょう
- ◆ 視覚障害者が犯罪から自分の身を守るためのツールの開発を求め、日常生活用具とすることを求めましょう
- ◆ 日常生活で求められるタッチパネルの操作や自署への対応について、視覚障害が障壁とならないための対策を積極的に提唱しましょう



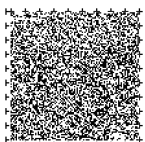
令和4年度 第1回全国団体長会議 開催



【写真】第1回全国団体長会議の様子

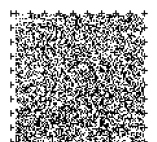
シンポジウムに続き1日目には、令和4年度第1回全国団体長会議が、オンライン参加も交え、全国の加盟団体および協議会の代表者が参加し開催されました。佐々木宗雅^{ささきむねまさ}日視連副会長の司会、田中伸明^{たなかのぶあき}名古屋市視覚障害者協会会長と辰巳壽啓^{たつみとしひろ}奈良県視覚障害者福祉協会会長の議事進行の下、令和4年度の運動方針（案）および団体提出議案について議論が行われました。

運動方針（案）について竹下義樹^{たけしたよしき}日視連会長は、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策



に関する法律の成立（14～17ページ参照）など社会の動きが急速であることに言及した上で、代筆・代読支援、ホームドア設置の促進や無人駅対策、雇用と福祉の連携による重度障害者等就労支援特別事業の拡大（あはき就労での活用を含む）、理療科教育における生徒減少などの厳しい現状に触れながら各テーマについて説明しました。

続く団体提出議案に関しては、4月に行われた生活、バリアフリー、職業の3つの分科会（12～13ページ参照）について各分科会の座長より説明が行われました。その後の質疑では、災害にともなう避難所生活で必要となる放射能線量計（しゃべる線量計）を日常生活用具に加えるべきこと、信号機の高度化PICS（※）に課題があることなどの発言がありました。高度化PICSについては利便性がある一方で課題も指摘されており、設置に当たっては地元の視覚障害当事者の意見を反映させるよう、日視連として警察庁に求めていることが、^{みやけたかし}三宅隆組織部長から説明されました。（※）高度化PICS（歩行者等支援情報通信システム）：^{ブルートゥース}無線通信技術のひとつBluetoothを



搭載したスマートフォン等により、対応アプリケーションを利用し、交差点名称や信号の色を音声や振動で提供するとともに、スマートフォン等から青信号の延長を可能とするシステム。



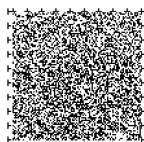
【写真】高度化PICS対応のアプリケーションを使う様子

令和4年1月31日現在、全国の191箇所の交差点に設置されている（警察庁ホームページより）。

式典は今年もライブ配信



【写真】歓迎の挨拶を述べる名古屋市視覚障害者協会 田中申明会長

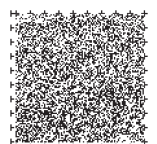


2日目には、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋7階のザ・グランコートを会場として、来場者に加えてYouTube配信の視聴者を交えて大会式典および大会議事が開催されました。第1部の大会式典では、名古屋市視覚障害者協会 ^{あらいみちよ}新井美千代副会長の開会宣言、国歌・会歌斉唱、黙祷の後、名古屋市視覚障害者協会 ^{たなかのぶあき}田中伸明会長から歓迎の挨拶が述べられました。

次に、日視連 ^{たけしたよしき}竹下義樹会長は主催者挨拶として、新型コロナウイルス感染症対策のため来場者を制限しながらもオンラインによる視聴を加えて多くの会員の参加を得て2日間にわたり開催できることの意義は大きいこと、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策に関する法律の制定など社会の動きが急速な中で青年あるいは女性の視点を踏まえつつ、会としての取り組みを進める必要があること、そのためには会員間での情報共有やコンセンサスの形成が重要であり、この全国大会がそうした場として今年度の活動の起点になることを述べて、全国大会の開催に向けてご尽力された地元



【写真】主催者挨拶をする竹下会長



会員の方々をはじめ多くの方に感謝の意をあらわしました。

続いて、日視連顕彰表彰式、^{かわむら}河村たかし名古屋市長並びに
名古屋ライトハウス ^{こんどうまさおみ}近藤正臣理事長の来賓祝辞、^{ごとうしげゆき}後藤茂之
厚生労働大臣、^{すえまつしんすけ}末松信介文部科学大臣、^{さいとうてつお}斉藤鉄夫国土交通大
臣、^{えとうせいいち}衛藤晟一参議院議員、^{いしだまさひろ}石田昌宏参議院議員からの祝辞が
披露されました。

第2部の大会議事では、令和3年度決議処理報告、令和4
年度運動方針を執行部の原案通り全会一致で可決。続いて宣
言・決議も全会一致で採択されました。さらに、次年度の第
76回大会開催地団体を代表して、奈良県視覚障害者福祉協
会 ^{たつみとしひろ}辰巳壽啓会長から挨拶があり奈良県橿原市で開催すること
が報告されました。

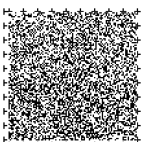
最後に、名古屋市視覚障害者協会 ^{いわまこうじ}岩間康治副会長から閉会
が宣言され、拍手の中、来場者とオンライン視聴者を交えた
2日間にわたる大会が幕を閉じました。

日視連 顕彰等被表彰者氏名

(敬称略・順不同でご紹介します)

【村谷昌弘福祉賞】特別組織功労

^{こんどう ひさえ}近藤 久江 (札幌市)



【礎賞】 組織功労

いろかわ たか お
色川 隆雄 (仙台市)

ほり けいいち
堀 恵一 (富山県)

うら ともすけ
浦 友亮 (堺市)

たつみ としひろ
辰巳 壽啓 (奈良県)

いちかわ まさあき
市川 正明 (鳥取県)

まえだ み ち こ
前田美智子 (女性協)



【写真】 副賞を渡す竹下義樹
日視連会長（左）と表彰を受
ける市川正明鳥取県視覚障害
者福祉協会会長（右）

【青い鳥賞】 福祉・文化功労

やざき しげる
矢崎 繁 (山梨県)

おおした まさたけ
大下 雅武 (奈良県)

【ブライトスター賞】 教育・スポーツ功労

ふなざき たかし
舟崎 隆 (札幌市)

からさわ けんや
唐澤 剣也 (群馬県)

もりた きよみ
守田 清美 (奈良県)

おかざき あけみ
岡崎 明美 (神戸市)

【光の泉賞】 内助等功労

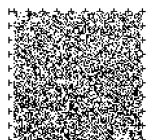
とりば のりこ
鳥羽 宣子 (北海道ブロック・札幌市)、 さいとう みちこ
齊藤 道子 (北信越ブロッ

ク・福井県)、 ひらい むつこ
平井 睦子 (東海ブロック・岐阜県)、 やまだ み え
山田 美恵

(近畿ブロック・京都府)、 ますもと すみこ
益本 澄子 (中国ブロック・広島市)

あさみ のりこ
浅見 範子 (四国ブロック・香川県)、 おやまだ けいこ
小山田 恵子 (九州ブロッ

ク・福岡市)



【光の泉功労賞】 **福祉貢献**

なかしま けいこ 中嶋 恵子（東北ブロック・岩手県）、 かつら みえこ 桂 美恵子（宮城県）、
こばやし こすえ 小林 子瑞（関東ブロック・埼玉県）

【感謝状】

社会福祉法人 名古屋ライトハウス

名古屋市視覚障害者協会（第75回全国視覚障害者福祉大会開催）

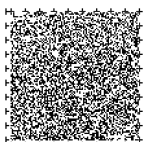
**【写真】**

感謝状を受け取る名古屋ライト
ハウス 近藤正臣理事長（右）

団体提出議案分科会が3年ぶりに開催

第75回全国視覚障害者福祉大会に先立ち、4月12日、14～15日に日視連加盟団体ブロックおよび協議会より提出された、団体提出議案を話し合う「分科会」がオンラインで開かれました。

12日にはバリアフリー分科会、14日に職業分科会、15日に生活分科会が開かれました。全国から各分科会あわ



せて約180名もの参加があり、地域特有の問題や地域での取り組みなどが挙げられ、活発な議論が交わされました。この分科会で議論された内容は取りまとめられた後、各府省庁・関係機関に陳情する予定です。



【写真】バリアフリー分科会の様子

第75回全国視覚障害者福祉大会動画 公開

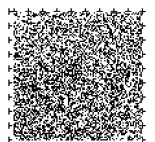
YouTube日視連チャンネルでは、大会当日のライブ配信動画を編集した「第75回全国視覚障害者福祉大会（名古屋大会）編集版」を配信しています。動画は、シンポジウム、第1部大会式典、第2部大会議事に分かれて公開しています。

■ 動画URL

シンポジウム (<https://youtu.be/D9aCiJ8g4Cw>)

第1部大会式典 (<https://youtu.be/iTaNuTMKyl8>)

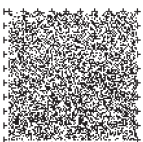
第2部大会議事 (<https://youtu.be/qCKUqOnQKJE>)



障害者情報アクセシビリティ・ コミュニケーション施策推進法成立

自治体によって点字、音声、拡大文字版の選挙公報を制作していない、コインロッカーやセルフレジなどの操作画面に音声案内がない、読み上げ機能が使えないホームページ上の情報があるといった、視覚障害者の困難や聴覚障害者をはじめとする多くの障害者の困難を解決するべく「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律（通称：障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法）」が5月25日に公布・施行されました。

この法律では、障害に依じて情報を取得する手段を選択できるようにすること、地域にかかわらず等しく情報取得等ができるようにすること、障害のない者と時間差なく同じ内容の情報を取得できるようにすること、全ての障害者が高度情報通信ネットワークや情報通信技術の活用を通じて、必要な情報を十分に取得し利用するとともに、円滑な意思疎通ができるようにすること、これら4つを基本理念とし、国や自治体に対して施策を進めるよう求めその責務を明記しました。

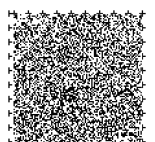


また、事業者や国民に対しても協力や理解を深めるようその努力義務を明記しました。

同法は5月13日に参議院において、同月19日に衆議院において、それぞれ全会一致で可決され成立しました。これにともない全日本ろうあ連盟、日本視覚障害者団体連合、全日本難聴者・中途失聴者団体連合会、全国盲ろう者協会の4団体は、同月20日に合同で声明を発表しました。声明全文は、日視連ホームページ (<http://nichimou.org/all/news/secretariat-news/220520-jimu/>) で見るすることができます。

情報取得等に係る施策推進に関する法律 成立報告会が開かれる

障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が公布・施行したことを受け、6月14日に参議院議員会館で、同法の議員立法を進めた超党派の議員連盟「障害児者の情報コミュニケーション推進に関する議員連盟」が報告会を開きました。当日は、同議員連盟に所属する国会議員、障害者団体の代表者、関係する府省庁の担当者等が集いました。



報告会の冒頭では、同議員連盟
会長の^{えとうせいいち}衛藤晟一参議院議員、幹事
長の^{やまもとひろし}山本博司参議院議員より、同
法の成立に尽力した国会議員、障
害者団体の代表者、府省庁の担当
者に対して感謝の言葉が述べられ



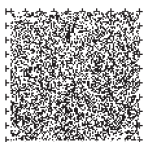
【写真】衛藤晟一参議院議員

ました。そして、同議員連盟事務局長である^{たきなみひろふみ}滝波宏文
参議院議員からは、同法の成立に向けた審議過程の報
告があり、党内調整で尽力をした各党の担当議員に対
する感謝の言葉が述べられました。



【写真】滝波宏文参議院議員（中央）と日視連から出席した竹下義樹日視連会長（右）、三宅隆組織部長（左）

その後、参加者からの
意見交換があり、日
視連から出席した^{たけした}竹下
^{よしき}義樹会長からは、感謝
の言葉と共に、今後、
視覚障害者を含む全ての
障害者の情報アクセ
シビリティを高めるた
めには、同法の第10
条（法制上の措置等）



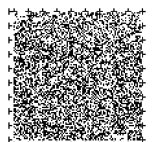
と第11条（障害者による情報取得等に資する機器等）を根拠とする各施策の具体化が必要と指摘し、同議員連盟の国会議員、関係する府省庁の担当者に対して具体化に向けた協力のお願いをしました。

点字考案から200年に向けて 「記念講演会&シンポジウム」開催



【写真】東京会場となった日本視覚障害者センターでは、大阪会場と韓国会場を結び、各会場の来場者と意見が交わされた

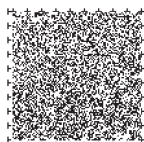
世界で初めて点字が考案された1825年から2025年で、200年を迎えようとしています。点字は、視覚



障害のある者にとって、唯一自由に読み書きできる文字です。この点字の考案と普及は、世界中の視覚障害者の自立と社会参加促進に大きく貢献してきました。

点字を考案したルイ・ブライユの業績に感謝しつつ、点字の意義をさらに大きなものとするため2025年に向け点字の普及と現代社会に即した実用性の拡大を目指し、各種事業を展開することを目的に日本視覚障害者団体連合、日本盲人福祉委員会、日本盲人社会福祉施設協議会、日本点字普及協会、全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会、日本点字委員会の6団体は「点字考案200年記念事業推進委員会」を設立しました。

第1回となる記念講演会とシンポジウムは、3月19日、韓国・東京・大阪の3会場をオンラインで結び、会場参加とYouTube配信のハイブリッド方式で開催しました。韓国のシロアム視覚障害者福祉館 チェ・ドンイク常務理事による記念講演「韓国点字法に学ぶ－立法経過とその後の状況－」とシンポジウム「これからの点字への期待－新たな輝きを求めて－」が開かれ、オンラインでの視聴も含め多くの視聴がありました。



東京都専門点訳奉仕員養成講習会受講者募集

日視連では、東京都の委託による「令和4年度専門点訳奉仕員養成講習会」を実施しています。

対象：点訳の知識と経験があり、受講後に都内で活動
できる方

期間：令和4年10月5日～令和5年3月31日

英語コース… 水曜日 10時～12時

触図コース… 金曜日 10時～12時

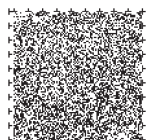
コンピューターコース… 水曜日 13時半～15時半

定員・回数：各コースとも定員10名、全10回

申込書請求：8月1日～8月31日（必着）に希望コース名を明記した用紙と、住所・氏名を記入し94円切手を貼った返信用封筒（長形3号）を同封の上、下記まで郵送ください。申込時に課題提出と来館による試験があります。詳細は、日本視覚障害者団体連合ホームページ (<http://nichimou.org/all/news/braillelibrary-news/160804-toshokan/>) をご覧ください。

問い合わせ先：日視連点字図書館 講習会担当

（電話03-3200-6160 内線番号：7番）



◆◆ご寄付のお願いについて◆◆

日本視覚障害者団体連合は視覚障害者自身の手で、
＜自立と社会参加＞を実現しようと組織された視覚障
害者の全国組織です。

1948年（昭和23年）に全国の視覚障害者団体（現
在は、都道府県・政令指定都市60団体が加盟）で結成
され、国や地方自治体の視覚障害者政策の立案・決定
に際し、当事者のニーズを反映させるため、陳情や要
求運動を行っています。

活動内容は多岐にわたりますが、そのために必要な
経費の確保は、厳しい財政の中困難を極めています。

視覚障害者福祉の向上を目指し、組織的な活動を維
持していくため、皆様からの特段のご厚志を賜ります
よう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

■ゆうちょ銀行

記号番号 00160-5-536104

加入者名 社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合

■みずほ銀行

店名 高田馬場支店

預金種目 普通 口座番号 2868101

カナ氏名（受取人名）

フク)ニホンシカクショウガイシャダンタイレンゴウ

※領収証が必要な方、本連合が振り込み手数料を負担する専用の振込用紙をご
希望の方は、日本視覚障害者団体連合までご連絡ください。

（電話：03-3200-0011）

